

朝会講話 「心のスイッチ」

令和2年7月1日（火）

学校が再開して一か月が経ちました。新しいクラスには慣れましたか。
今日は、朝会のお話の前にみなさんに二つ伝えたいことがあります。

まず一つ目は、毎日、うがいや手洗いをしっかりして、体温をちゃんと測ってくれて、遊び方もいろいろ工夫してくれて ありがとう。

南っ子のみなさんが感染防止に気を配ってくれていること、努力してくれていることが、毎日の生活を見ているとよく分かります。一人一人ができることをしっかりやってくれて、本当にありがとう。

二つ目は、みなさんがとてもお楽しみにしている学校行事を中止にしてごめんなさい。みなさんの大切な命を守るため、感染防止のために中止することにしました。

運動が好きで、運動会や南っ子マラソンを楽しみにしていた人もたくさんいたと思います。音楽が好きで、こぼと祭を楽しみにしていた人もたくさんいたと思います。5, 6年生は、宿泊行事をととても楽しみにしていたと思います。

特に、6年生は何をするにも「小学校生活最後の」が付く年なので、本当にショックだったと思います。みなさんが楽しみにしていることができなくなってしまっていて、ごめんなさい。

行事が中止になり、できることは限られてしまうけれど、南鳩ヶ谷小の先生方はずっと「こういうことができるのか」「こういうことならできるかな」と考えくださっています。このことを南っ子のみなさんにどうしても伝えたくて朝会のお話の前に話しました。

さて今日は、みなさんに東井 義雄さんが作った「心のスイッチ」という詩を紹介します。

| |
|--|
| 人間の目は ふしぎな目 見ようという心がなかったら 見ているも見えない 人間の耳は ふしぎな耳 聞こうという心がなかったら 聞いているも聞こえない 頭もそうだ はじめからよい頭 わるい頭の区別があるのではないようだ 「よし やるぞ！」と心のスイッチが入ると 頭も すばらしいはたらきを はじめる 心のスイッチが 人間をつまらなくもするし すばらしくもしていく 電灯のスイッチが 家の中を明るくもし 暗くもするように |
|--|

東井さんは、「人間は五千通りの可能性を持って生まれてくる。その可能性の中から、どんな自分を取り出していくか、みなさん一人一人がその責任者なんですよ。世界でただ一人の自分をどんな風に仕上げていくかは自分であり、みなさん一人一人なんです。」とも言っています。

校長先生は、今日、あらためてみなさんに心のスイッチを入れてほしいと思います。それは、自分の力をさらに伸ばして、夢や目標に向かって大きく成長してほしいからです。

さあ、夏休みまで一か月、心のスイッチをしっかりと入れて進んでいきましょう。